

2013年3月期第3四半期決算IR説明会ネットカンファレンス(2013/2/5開催)
質疑応答内容

Q:機械部門において2Qと3Qを四半期ベースで比較すると、2Q比で3Qは落ち込んでいるが何故か？

A:産業情報関連の収益計上が4Qに集中する傾向がここ数年続いており、今期も4Qでの収益計上分が大きい。また、プラントプロジェクト関連において、3Qに収益実現したものが少なかった。ただ、4Qにいくつか実現するものを予定しており、収益計上が出来ると考えている。

Q:エネルギー・金属部門において2Qと3Qを四半期ベースで比較すると、2Q比で3Qは落ち込んでいるが何故か？

A:バイオエタノール事業で3Qはかなり損失を計上した。4Qはバイオエタノール事業の投資簿価の償却が終わり、赤字が大幅に縮小するとみている。

Q:機械部門の自動車事業の足元の状況について教えてほしい。

A:自動車事業の3Qは2Q比落ち込みが大きくなっている。原因の一つがベネズエラの自動車事業。当社は同国の外貨送金規制の問題や為替切り下げの可能性を勘案し生産調整を行っており、この状況は4Qも続いている。また、ロシアにおける自動車事業は、欧州メーカーの販売攻勢に押され、見込みよりも販売台数が上がらず、3Q以降利益率が低下している。一方、タイ、フィリピン、プエルトリコ等で展開している自動車事業は、予想を上回る販売台数で好調に推移している。

Q:今期の業績について営業利益・経常利益の進捗率が低いですが、今期の見通しは達成するのか？

A:今期見通し達成に向けて全社一丸で取り組んでおり、全ての部門において、4Qである程度の収益のリカバリーを見込んでいる。具体的には、機械部門におけるプラントおよび産業情報関連商売からの収益計上、エネルギー・金属部門におけるバイオエタノール事業の赤字幅縮小。また、化学部門は、3Qで一部の事業が定期修繕のため生産を止めていたが4Qで再開する。生活産業部門におけるタイの肥料事業は比較的好調に推移している。

Q:今期はバイオエタノール事業や一部の石油・ガス権益の生産量が一過性の要因で減少するなど、業績が下振れる要因が重なり収益が悪化したが、来期はそういった一過性の要因が解消されることで収益が回復してくると考えて良いか？

A:バイオエタノール事業は今期で投資簿価を償却することになるため損失計上が止まることになる。また、生産開始・再開が遅れていた一部の石油・ガス権益は、現在のところ今年6月頃には生産をスタートできると見込んでいる。

Q:現行の中計では、資産入替のためのコストとして期初に今期▲100億円、来期▲50億円の特別損益を計画していたが、足元の状況は如何か？

A:資産圧縮のコストはプラスマイナスあるが、ネットではプラスになるとみている。

Q:資本の部の為替換算調整額に関連して、為替に関する感応度を教えてほしい。

A:外貨資産のうち US ドル建てのものがほぼ半分を占めており、ヘッジしていることも考慮すると、1円上下すると約 14 億円、為替換算調整額が動くことになる。但し、これは半分を占める US ドルのみの分としてご理解頂きたい。

Q:資産入替が順調に進んでいることや為替が円安方向に向かっていることで株主資本が回復するなど、BSが強化されてきているとみているが、足元の状況を踏まえ、現行中計で掲げるBSの目標値はある程度みえてきているか？

A:確かに足元の円安で自己資本が回復しており、それに伴ってDER等財務指標の数字が良化したのが、期間収益によって自己資本を積み上げていくというのが元々の目標であり、この点については満足していない。従い、BSそのものが強化されたかといえば、自信を持って言える状態ではないと考えている。来期以降に収益を積み上げることで、自己資本を大きくしていくことが最重要課題だと考えている。

Q:生活産業が好調に推移しているが、肥料や海外工業団地などの来期にかけての持続性について、ご説明頂きたい。

A:タイの肥料事業が好調に推移している。来期も今期並みの好調さを維持できると考えている。また、ベトナム・フィリピンにおいてタイと同様の肥料事業を展開しているが、まだ利益面ではタイに及ばない。しかし、両社の収益強化を図っており、来期はこの伸びシロに期待したいと考えている。また、複数の地域で展開している海外工業団地事業についても今期好調に推移しており、来期もある程度の数字が期待できるとみている。

以上